

「ふくえっ子」通信 NO. 8

平成30年
10月26日

AI時代のキャリア教育（1）

校長 吉岡智昭

1 AIによる社会の変化

さて、最近よくAIという言葉を目にします。AIとは人工知能のことです。「アルファ碁」という人工知能が世界的なトップ棋士に勝ったというニュースは覚えていらっしゃる方も多いのではないのでしょうか。AI以外にもIoT、ロボット、ビッグデータといった技術革新が急速に進みつつあります。これらの技術革新によって社会の有り様も大きく変化するだろうと言われています。例えば、今後10～20年で今ある仕事の半分はなくなるといった説を唱える学者もいます。本当にそうなるかどうかはわかりませんが、少なくとも、AIやロボットにやらせた方が、人間がやるよりも効率よく正確に業務を進めることができる業種は確実に広がっていくことでしょう。すでにアメリカでは弁護士の業務の一部をAIが行っているそうです。弁護士と言えば医師と並んで高度専門職の代表格の職業です。こういった職業でさえAIに取って代わられる時代がすぐそこまでやって来ているのです。このように社会や仕事の有り様が変わる中で、子どもたちはどのような「必要な資質・能力」を身に付けていけばよいのでしょうか。

2 これからの時代に「必要な資質・能力」

キャリア教育とは、将来子どもたちが一人前の社会人・職業人として自立するために必要な資質・能力をつけることをねらいとした教育活動です。AI等の発達により、社会や仕事の有り様が変われば、キャリア教育で育成する「必要な資質・能力」も当然変化が求められます。だからといって、挨拶をしなくていいとか、時間を守らなくていいとかにはならないでしょう。しかし、AIやロボットの特性を生かしながら仕事を進めていくという視点から、どのような資質・能力が必要なのかを見直す必要があります。AIの得意な仕事は、膨大な資料を処理し、決められたルールの中で正確に仕事を処理することです。囲碁や弁護士の業務の一部はそれにあたります。それでは人間にはできるけどAIが苦手なことは何でしょうか？わたしは次の4つだと考えます。

- ① 人と人との心地よいコミュニケーション
- ② 課題を設定すること
- ③ 新しいものを生み出すこと
- ④ 状況の変化に対応し、答えを導き出すこと

これらは、変化の激しい時代を生き抜くために学校教育の中で身に付けさせておくべきことだと考えます。そのための取組の1つとして、今年度新たにスタートさせたのが「6次産業体験学習」です。（No.9につづく）

福栄大運動会に参加しました

10月14日。さわやかな秋晴れの中、福栄大運動会が開催されました。ここ2年は雨天中止となっていたため、福栄小中学校となって初の開催となりました。学校の運動会とはひと味違った和やかな雰囲気の中で競技が行われました。昼食時には、小学部の一輪車、中学部の部活動行進が行われ観覧席からは大きな拍手が沸き起こりました。最終種目のリレーには、本校教職員チームも参加しました。



「ふくえっ子ブログ」をご覧ください

ここに載せきれなかった運動会の写真は、「ふくえっ子ブログ」に掲載しています。福栄小中学校 Web ページの「ふくえっ子ブログ」をクリックして下さい。



福栄小中学校

検索

ヤフーやグーグルで検索

ココをクリック